

相鉄線・みなとみらい線の駅係員等が 「2027 横浜 国際園芸博覧会推進ロゴマーク」 バッチを着用します

相模鉄道株式会社（本社・横浜市西区、社長・千原 広司、以下相模鉄道）と横浜高速鉄道株式会社（本社・横浜市中区、社長・森 秀毅、以下横浜高速鉄道）は、2027年に横浜で開催する「国際園芸博覧会」をPRするため、令和3年8月11日（水）から12月31日（金）まで、相模鉄道では相鉄線（本線・いずみ野線・相鉄新横浜線）の駅係員と乗務員が、横浜高速鉄道ではみなとみらい線の駅係員が、それぞれ「2027 横浜 国際園芸博覧会推進ロゴマーク」バッチを着用します。

2027年に横浜市旭区・瀬谷区で開催される国際園芸博覧会は、2015年6月に返還された旧上瀬谷通信施設で「幸せを創る明日の風景」をメインテーマとして開催します。今回、会場沿線である相鉄線の駅係員と乗務員及び、博覧会来場者の横浜観光時に利用が想定されるみなとみらい線の駅係員がバッチを着用することで、鉄道利用者等への認知度向上を図ります。

【概要】

- 1 対象者：相鉄線の駅係員・乗務員、みなとみらい線の駅係員
- 2 着用期間：令和3年8月11日（水）～ 12月31日（金）
※夏服は胸にバッチ、冬服は襟にピンバッチを着用

【参考1】国際園芸博覧会については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/engeihaku/top.html>

【参考2】2027 横浜 国際園芸博覧会推進ロゴマークについて



2027横浜
国際園芸博覧会

国際園芸博覧会の国内外へのPRと機運醸成を進め、愛着心や誇りを高めるための推進ロゴマークです。博覧会協会（仮称）による公式ロゴマークが作成されるまでの間、活用していきます。

現在、横浜市では国際園芸博覧会の全国的な広報PR・機運醸成の取り組みとして推進ロゴマークを活用して国際園芸博覧会と一緒に盛り上げていただく協力者（企業・団体など）を募集しています。ぜひ2027年の国際園芸博覧会のPRにご協力をお願いいたします。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/engeihaku/logopr.html>

＜推進ロゴマークに込められた意味＞

2027年、横浜で開催する国際園芸博覧会に、花・緑・農をはじめとした世界の自然、人、文化が集まる様を、花をモチーフに表現しています。花卉は、博覧会で生まれる多様な交流と、そこから「幸せな明日」を創造していく生命力を、葉は、自然との共生を象徴し、茎は、開催地横浜の“Y”を表しています。

（裏面あり）

【参考3】着用例

＜相模鉄道 駅係員・乗務員（左：夏服、右：冬服）＞



＜横浜高速鉄道・みなとみらい線 駅係員（左：夏服、右：冬服）＞



＜左：推進ロゴマークバッチ（夏服用）、右：推進ロゴマークピンバッチ（冬服用）＞

